

2015. 3. 30 第2296回例会

質実剛健 “魅力あるクラブ”

東京城東ロータリークラブ会長 篠田 泰彦

例会日 毎週月曜日 12:30 ~ 13:30
 例会場 〒130-0013 墨田区錦糸1-2-2 TEL 5611-5511
 東武ホテルレバント東京
 事務局 〒130-0013 墨田区錦糸1-1-5
 TEL 5637-4605 FAX 5637-4611
 事務局 天尾 文 (伊藤)
 E-mail jyoto@club.email.ne.jp

会 長 篠田 泰彦 副会長 会田 博
 幹 事 若井 一郎 副幹事 篠田 秀樹
 会報委員長 江波戸 健治

R I 会長
 ゲイリー C.K. ホアン
 第2580地区ガバナー
 鈴木 孝雄
 第2580地区幹事
 吉田 秀得

ガバナー補佐：伊藤三千男
 (東分区担当)
 東分区幹事：青木一男
 東分区副幹事：古谷勝彦



本日の卓話

「平成27年度税制改正について」

今井 邦彦 会員



2015/3/23(月)

「かものはしプロジェクトの活動について」
 NPO法人かものはしプロジェクト
 代表 村田 早邪香 氏

2015年3月23日 例会報告

点 鐘
 ロータリーソング 『それこそロータリー』
 ゲストスピーカー 1名
 ゲスト及びビジター 2名
 会員出席状況 49名中40名(出席率81.63%)
 前々回訂正出席率 100%

ニコニコボックス

○村田様、本日の卓話よろしくお願ひ致します。
 篠田泰彦君・若井一郎君・会田 博君
 篠田秀樹君・奈良康司君・津覇好延君
 山崎富士夫君・渡辺孝至君

小計 ¥26,000.- 累計 ¥1,992,000.-

- 来月4月の受付当番 -

上條君/齊藤君/酒見君/篠田(秀)君/須田君

次回の卓話

「未定」

コダマ・モチベーション・コンサルティング
 代表取締役社長 田村 毅 氏

内容充実の為に、皆様からの投稿をお待ちしております！

—エイズを題材とするドキュメンタリーで
ロータリーがテリーアワードを受賞(2015.3.16)

ロータリーの放送メディア部が制作したドキュメンタリー短編映画「Rotary Family Health Days」が、2015年テリーアワード(Telly Awards)の2つの賞を受賞しました。テリーアワードは優れた映像作品に贈られる榮譽ある賞であり、ロータリーのこの作品は、オンラインビデオ・ドキュメンタリー部門で最高のシルバー賞、オンラインビデオ・ブランドコンテンツ・エンターテイメント部門でブロンズ賞に輝きました。南アフリカの国営テレビ局である南アフリカ放送協会をはじめ、アフリカ各地のテレビ局がこの映画を放映しました。

「勇気が出るようなニュースや、社会のためにがんばっている人達の姿を伝えることで、外部の人達にロータリーの活動を紹介したかった」と、プロデューサーであるアンドリュー・チャドジンスキーは話します。

このドキュメンタリーでは、アフリカの地域社会が抱える HIV / エイズの問題に焦点を当てながら、米国と南アフリカの2人の女性の姿を追っています。エイズで娘夫婦を亡くした南アフリカのメ・マリアさんは、2人の孫と一緒に暮らしています。孫の世話をしながら懸命に生きる彼女の姿は、観る人に感動と勇気を与えます。

一方、米国アトランタのロータリー会員、マリオン・バンチさんは、エイズで息子を亡くしたことをきっかけに、全世界でのエイズ予防活動を始めました。「ロータリー家族健康デー(Rotary Family Health Days)」の支援もその一つです。「息子を亡くしたことで、ビジネスウーマンとしての生活から、エイズ予防と人権のために闘う人生へと変わった」と語るバンチさんは、昨年10月、ロータリーの2014年「ウーマン・オブ・アクション」の1人としてホワイトハウスで表彰されました。ダンウディ・ロータリークラブに所属するバンチさんは、自ら設立したグループ、「Rotarians for Family Health and AIDS Prevention(家族の健康とエイズ予防のためのロータリアン)」の代表責任者を務めています。このグループは、保健プロジェクトに力を入れているロータリークラブの支援も行っています。



—内戦下の南スーダンにきれいな水を

(2015.3.23)

世界で最も新しい国、南スーダンは、2011年に独立国家としての道を歩み始めました。しかし、19世紀以来土地と資源をめぐる争ってきたディンカ族とヌアー族との紛争が悪化し、2013年12月から内戦状態が続いています。既に数万人が死亡し、180万人ほどが行き場を失いました。また、政府と反対勢力との間で結ばれた3回の平和協定もすぐに破られてしまいました。

武力衝突は主に国境地帯で起こっていますが、国境から離れた地域でも経済危機やインフラの荒廃が進んでいます。政府による支援がほとんどなく、汚染された水による感染症や飢饉が深刻化しています。

そんな中、南スーダンの首都ジュバと、米国ウィスコンシン州のロータリー会員が、南スーダンの山間にあるテネットボマ地域で、10の村の住民のために、給水インフラの構築に取り組んでいます。

ロータリー会員たちは、ロータリー財団のグローバル補助金を活用して4万7千ドルの資金を確保。その資金で井戸を掘り、太陽光電池で動くポンプ、1万9千リットルの貯水タンク、6から10の蛇口を設置することで、1万4千人の人達がきれいな水を使えるようになることを目指しています。

このプロジェクトは、当初から困難に突き当たりました。村が集まっている地域から最寄りの町までは1本の道路があるだけで、歩いて3日かかります。年2回訪れる雨季には道がぬかるみになり、建設資材どころか救援物資さえ、輸送がほとんど不可能になります。補助金が承認されたのがちょうど雨季だったため、しばらくは資材の調達もできませんでした。

また、支援の対象となっている地域への立ち入りを反抗勢力が制限しているため、そこへたどり着くことさえも非常に難しい課題です。その地域で影響力のあるジュバのロータリー会員は、政府関係者、反対派リーダー、部族リーダーたちにこの水プロジェクトの重要性を理解してもらうことで、困難を克服しようとしています。

当初利用する予定だった業者が武力紛争を嫌ってプロジェクトから撤退したことも、さらなる遅れの原因となりました。内戦のため、プロジェクトに参加できる業者が少ないことも問題となっており、ロータリー会員たちは政府やほかのNGOと協力し、代わりの業者を探しています。

これらの困難にもかかわらず、長年南スーダンを支援してきた米国ウィスコンシン州のロータリー会員、ジョン・ケリーさんは次のように述べています。「私たちはあきらめません。できる限り多くの政府関係者、NGO関係者、その他の人々の関係を築き、情報を収集すれば、このプロジェクトは必ず完成します」